

論文審査の結果の要旨

令和2年2月15日

氏名 杜立娜

研究テーマ

『The formation mechanism of entrepreneur strategy from the view point of organizational evolution: Case studies of Ruimin Zhang and Jack Ma』

近年、存在感を増しつつある中国民営企業のハイアールとアリババを取り上げ、両社の持続的な発展の要因に関して、論証を精力的に展開した本論文は、研究目的が明確であり、その目的に対する研究方法、結論も的確と評価できる。

本論文は、経営戦略論、リーダーシップ論、組織進化論など分野の先端的な理論研究に関し広く渉猟し、それらの流れを掴み、先行研究の諸論点を踏まえて、研究を展開している。さらに、ハイアールとアリババに関する中国国内の先行研究をもサーベイし、それらの限界を指摘している。

学界において企業の持続的な発展は組織の進化、または外部環境のプレッシャーによるものが大きいと主張する学者が数多くの研究を積み重ねてきた。しかし、筆者はリーダーの戦略的思考などには関連が比較的薄いという視点に対して、リーダーの戦略的思考と意思決定との効果的な組み合わせが、企業組織・経営資源の再編・調整を促し、受動的な外部環境の変化、または積極的に新たな外部環境を取り込むための変化に対応する役割を果たすという考え方を示した。

また、筆者が歴史学研究法で研究対象の歴史変遷過程を考察したことによってハイアールの経営者である Ruimin ZHANG (張瑞敏) とアリババの創業者兼 CEO である Jack MA の人物像を浮き彫りにしたと同時に、両社の戦略調整に深くかかわっている。

ZHANG 氏と MA 氏の戦略的思考と意思決定の過程を明らかにした。実際に筆者が歴史学研究法にとどまらず、M.ポーター氏のファイブフォース分析と SWOT 分析を用いて、企業の環境と企業内部状況に関して、特に段階ごとの変化を分析した。この分析を通して、ハイアールとアリババにおける外部環境の変化や企業戦略の調整を明らかにした。

上述の考え方に基づいた氏の研究がリーダーシップ論の新たな理論土台を築き上げることができたとともに、途上国の企業事例を取り上げ、先進国から生まれた経営学理論を検証したこと自体もいうまでもなく、経営学への貢献があるといえる。以上のとおり、博士(学位)授与の判定に合格としたい。

主査(職・氏名) 特任教授 福島和伸